

第2回食品科学研究のための基礎セミナー 開催のご案内

【開催趣意】

食品/食材(食品と総称)関係の研究分野にもグローバル化の波が急速に押し寄せており、関係学会はこれにどのように対応するかで苦慮しております。このような世情の急速な動きの一方で、食品企業や公的試験研究機関の組織効率化や、大学における大講座制の促進は、各組織での研究者の人材育成を困難な状況にさせております。

本セミナーは、食品と関連する企業、大学、公的試験研究機関等で実験/試験に携わる研究並びに開発者(研究者と総称)を対象として、食品分野での研究の重要性、研究者としての考え方や方法論の基礎/応用について共に学ぶことを主眼としています。食品分野の研究者が、どのように研究テーマを設定し、どのような方向性で研究を進めるか、研究の方法にはどのようなものがあるか、関連領域の学術情報をどのように収集して理解するか、どのように研究結果をまとめ、公表して他の研究者に納得してもらい、社会に貢献するか、などの考え方や方法を共に育つことができる場の提供・協力が主な活動です。これらの内容を皆で体得し共にグローバルで自立した研究者として成長することが、学会/団体の研究者としての資質向上に繋がり、関係学会での発表及び投稿論文数の増加を通じて社会貢献できる、と考えております。即ち、若手研究者の成長によって食品分野の基礎研究並びに企業での開発研究が継続的に活性化される環境を実現するための活動を目標としております。

一方で、若手の育成には中堅研究者や研究統括者の意識改革も重要であることから本セミナーではこれにも焦点を当てた企画を考えております。さらに、発表された論文が機能性表示や栄養疫学における「科学的根拠」を提供すると同時に、ときには情報バイアスの発生源となる場合があるという社会的な課題にも目を向けて検討致します。また日頃の研究開発業務を通して研究統括者がどのように人材を育成するかについての手法を学ぶ活動も検討したいと思っております。

【主催】

主催：日本食品化学学会、奥伊勢 BSC (バイオサイエンスセンター)

【開催概要】

- ・ 日時： 2017年1月21日(土) 10:00~15:00
場所： 食品衛生センター内 5階講堂
- ・ 参加費： 個人/法人会員(日本食品化学学会・奥伊勢 BSC)：2,000円
公的試験研究機関(非会員)：3,000円
大学(非会員)：5,000円
企業(非会員)：10,000円
- ・ 参加申込：日本食品化学学会 HP の「登録・お問い合わせ」よりお申込み下さい。
(定員100名。定員に達し次第受付終了となります。)

【問合せ先】

日本食品化学学会事務局 e-mail：shokuhinkagaku@jsfcs.org

※基本的には上記メールアドレスにてお問い合わせ下さい。

お電話でのお問い合わせ⇒TEL：06-6333-0521

担当：森本・岡山(三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 検査部)

第2回食品科学研究のための基礎セミナー プログラム(予定)
スローガン:論文リテラシー「食品科学関係の論文を読み書きする能力」を養おう
日時:2017年1月21日(土) 10時~15時

場 所: 食品衛生センター内 5階講堂(東京都渋谷区神宮前2-6-1)

★9:30 受付開始

総合司会:松尾 雄志(ファシリテーターを兼ねて)

★10:00-10:20 はじめに【20分】

『実験研究の成果発表(エビデンス)の重要性について』

京都大学大学院医学研究科特別研究員

奥伊勢バイオサイエンスセンター 理事長 松尾 雄志

★10:20-11:20 セミナー特論【60分】

『学術論文の読み方、書き方(基本編): Regulatory Science における論文の意味を踏まえて』

国立医薬品食品衛生研究所・食品部長(日本食品化学学会理事) 穂山 浩

=休憩 10分(質疑応答を含む)=

★11:30-12:10 セミナー各論(1) 【40分(討議を含めて)】

『論文は自己表現の一つです。』

麻布大学 生命・環境科学部 食品生命科学科 食品安全科学研究室 教授 小西良子

★12:10-13:20 【70分(10分準備/食事時間60分)】

特別企画:辻製油株式会社協賛によるランチョンセミナー

『学位論文を書くに至るまで(仮題)』

指導教官の矢野氏と学位取得された研究者2名で進める予定。

三重大学大学院・地域イノベーション学研究科 教授 矢野 竹男(指導教官)

辻製油(株) 研究員 伊藤 克

千葉県衛生研究所 上席研究員 橋本 博之

★13:20-14:00 セミナー各論(2)【40分(討議を含めて)】

『皆が目指せるエレガントな論文作成 ~7年間のNIH留学経験から~』

藤田保健衛生大学大学院保健学研究科教授

京都大学名誉教授 斉藤邦明

=休憩 10分(質疑応答を含む)=

★14:10-14:50 セミナー各論(3)【40分(討議を含めて)】

『地方衛生研究所における研究方法、論文のまとめ方、査読者との対応方法(仮題)』

埼玉県衛生研究所 化学検査室長 石井里枝

以上